

- 活動日時：2012年8月25日（土） 9：00～12：00
- 参加者：4名 今回はメンバーそれぞれ予定があり、参加者は小人数でしたが、和気藹々良い汗をかきました。
- 活動内容：上部植栽地と自然林の境界にある緩斜面のササなどの下草や雑木の除伐。
 - ・SGCは、ここを第2基地にすることを前提に、緩斜面の中央部に除伐した木の枝や葉の積載所を作り、尾根道に繋がる斜面に自生のクリの木が有ることから「クリの木広場」と呼んで「野外環境教室」等に利用する考えています。
 - ・最近手入れが出来ていなかったため、ササなどの下草が生え、雑木も大きくなっていましたが、予定通り作業を終えることが出来ました。活動頂いたチーム神於山の皆さん、お疲れ様でした。
 - ・その折、中央の平地に自然林のスギ・ヒノキを間伐して「床」を作ろうという話が出ました。第2基地を作る為にも、皆で設計図を描き、楽しみながら進めたいと思っています。
 - ・下界は真夏日が続いていますが、山の気温は28度。ツクツクボウシやミンミンゼミが鳴いていて、着々と秋に向っています。
- 次回活動日
 - ・次回は9月8日（土）のSGC活動日で、コア活動時間は9～12時ですが、午後 社友会主催の「里山遊々塾」を開講します。皆さん奮ってご参加ください。

クリの木広場の下草刈り。 気温は低いものの湿度が高く、作業も結構ハードでしたが、良い汗をかきました。



2台+1の刈払機大活躍。 刈払機が威力を発揮！ 広い場所の下草刈りには、刈払機は必需品です。



- ・刈払機は何でも刈ってしまうので、苗木が小さい時の下草刈りには不向きで、カマやハサミが主力でした。
- ・しかし苗木が育つとその心配が無くなる一方、除伐や間伐などの育林作業や生態系の調査や保全等、ワンステップ上の活動が始まることから、ベーシックな下草刈りは効率重視で進めないと時間が足りなくなります。
- ・当初神於山には5台の刈払機が有りましたが、3台盗難に遭ったことから、現在は2台に個人所有のものを持ち込みなんとか凌いでいる状態です。
- ・本社SGCに後最低2台の購入をお願いしていますが、予算が無いという事で購入の目処は立っていません。今後の為に困った問題です。

参加頂いた4名のメンバーの皆さん。

刈ったばかりの広場の中央で撮影。お疲れ様でした。



- 初めてセルフタイマーで撮影してみました。
- 不慣れで3回ほど失敗しましたが4回目で成功。
- 何を今更ですが、こんな便利な機能があったのかという気分です。
- 次回から集合写真は、参加者全員が写るようにセルフタイマーで撮るようになります。

ここでも クロコノマチョウ発見。

植栽地に日が差さない林間部を好む蝶が定住しており、良い傾向です。



- クロコノマチョウは「黒木間蝶」と書くように、地味な茶色で、明るい所より暗い所を好む蝶です。
- 「ウィキペディア」によると、「チョウ目タテハチョウ科ジャノメチョウ亜科に分類されるジャノメチョウの一種。日中は里山の疎林や開けた竹林の枯れ草や落ち葉の間に息を潜んでいて、茶色一色にしか見えない地味な模様と、不整合な飛び方は蛾を思わせる。夏型と秋型があり、夏型は秋型と比べて比較的黒っぽく、翅裏には小さな蛇の目模様が並び、秋型は翅裏が枯葉模様になり翅の縁が尖る。」とあります。
- 植栽地の中でも見つけましたが、確かに注意しないとどこに居るか判りにくい蝶です。

- 神於山シャープの森では、食性が国蝶のオオムラサキと同じゴマダラチョウや、後翅に黄白色の大きな斑紋がある日本最大級のモンキアゲハから小型のミスジチョウまで、明るい場所を飛び回る蝶も、クロコノマチョウ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲなど日陰を好む蝶も生息し始めました。
- シンボルツリーのエノキの周りでタマムシが飛んでいるのも目撃しています。
- また神於山シャープの森の草原には無数のバッタ類が生息しています。
- これらは、元の笹原では見かけなかった昆虫類で、多様な生物が棲む環境が整いつつあります。
- 活動テーマに掲げられた「フクロウの棲む森づくり」は、食物連鎖をベースにした生態系の再生を目指したのですが、フクロウの主な餌のヒメネズミやアカネズミは、ドングリなどの種子や昆虫を食べますから、ベーシックな部分での条件は整いはじめており今後が楽しみです。